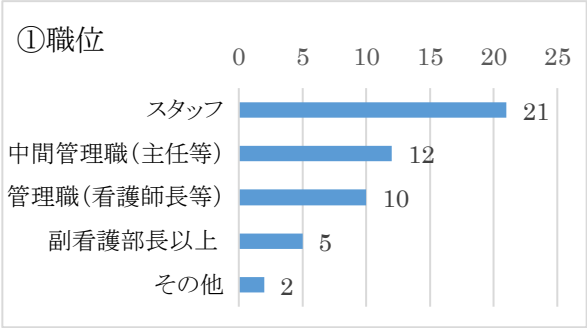
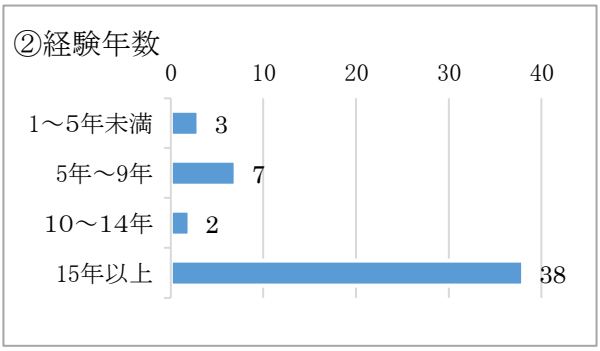
１．看護研究学会

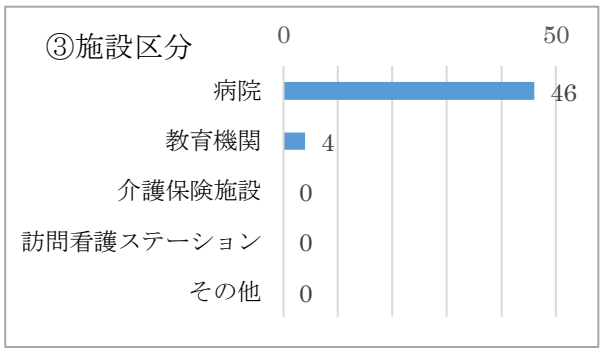
テーマ	自分らしく生きるを支える　～切れ目のない看護～	
開催日時	令和 6 年 2 月 23 日(金曜日)	時間 9:00 ～13:00
開催形式	参集	
参加者数	91 名（保健師 0、助産師 3、看護師 86、准看護師 0、その他 2）	
目的	県下の看護職者に研究発表及び実践活動報告の場を提供し、看護職の研究活動を推進するとともに、本県の看護の質向上を図る。	
演題	口演 22 題	
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	Ⅰ シンポジウム 高知家ONE TEAMでつなぐACP 座長 高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子 シンポジスト ・行政の立場から　高知県健康対策部在宅療養推進課　課長　都築 一元 ・医師の立場から　伊与木クリニック 医師 伊与木 増喜 ・急性期病院看護師の立場から 高知大学医学部附属病院　緩和ケア認定看護師 佐々木 牧子 ・訪問看護師の立場から　こうち看護協会訪問看護ステーション 所長 山本 明子 Ⅱ 研究発表・実践報告 第 1 群:教育・看護師支援　5 題 第 2 群:看護実践・業務改善(1)　6 題 第 3 群:連携・協働　5 題 第 4 群:看護実践・業務改善(2)　6 題	

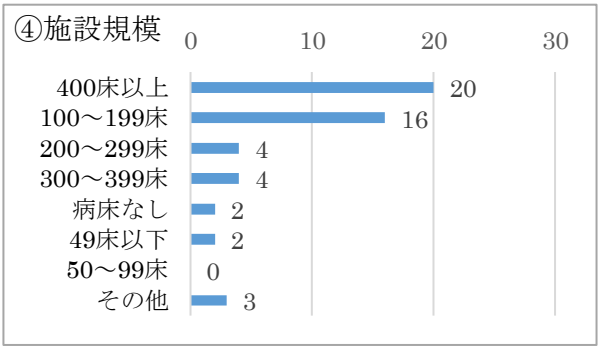
1)アンケート結果 ※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答
回答対象者 82 名（研究学会委員 9 名含む） アンケート回答 50 回答率 61.0%

(1)参加者背景

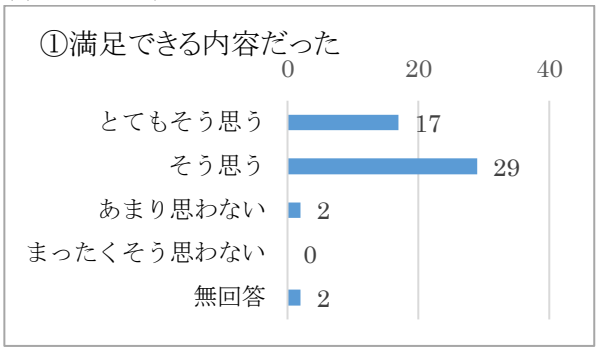


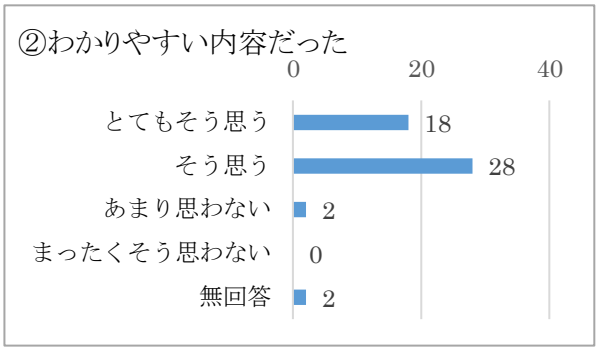


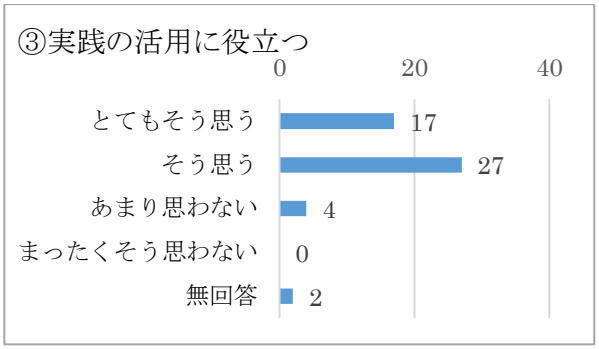




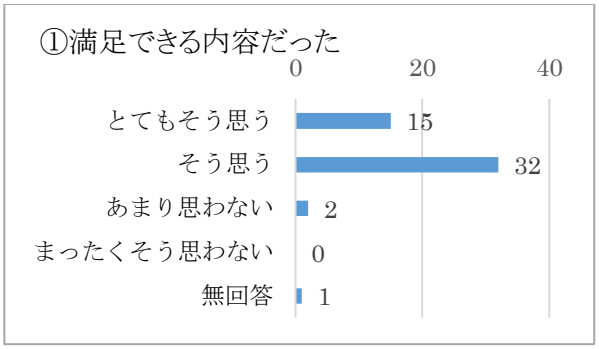
(2) シンポジウムについて

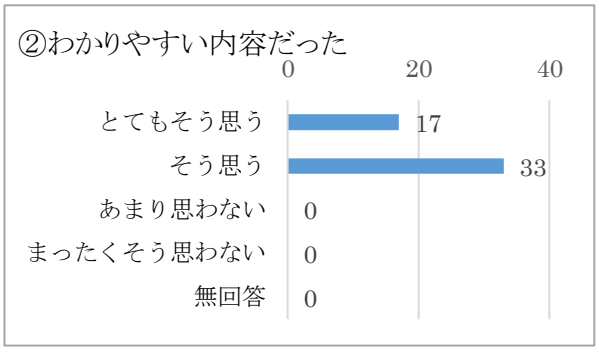


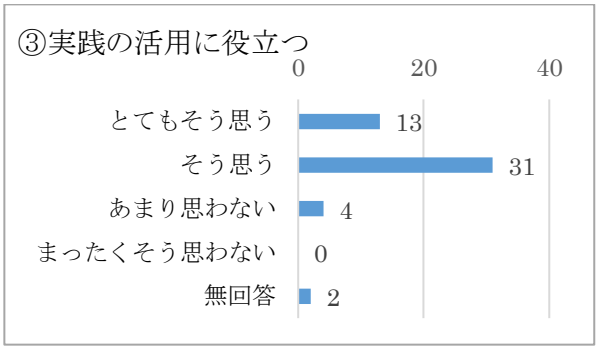




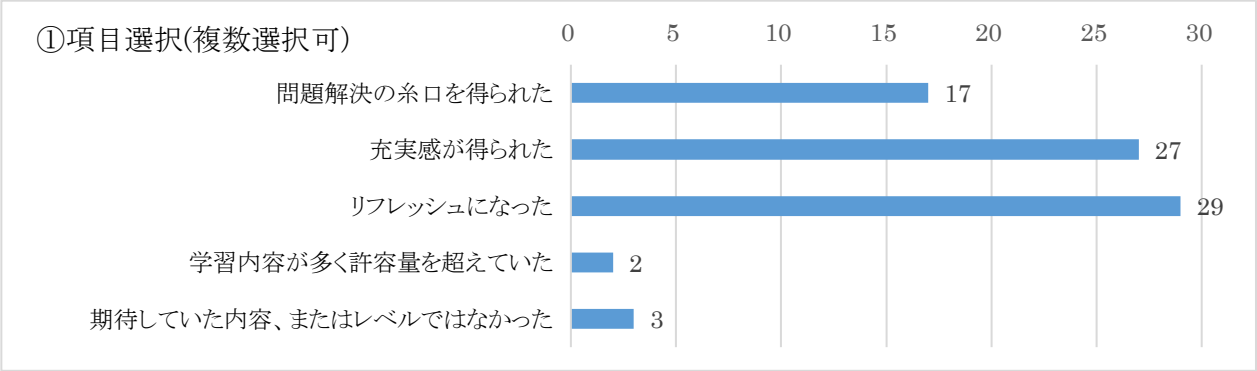
(3) 口演発表について







(4)学会全体の感想



②自由記述

- 県内の看護師の頑張る姿身近に感じられてよかった。
- 予想以上に多くの方が参加してくれてよかったです。
- 看護研究まだ取り組んでみたいと思いました。パワーポイントが小さすぎて見にくかったものもありました。
- 久しぶりの研究発表で、緊張もしましたが　興味あるテーマもあり、刺激を受けました。
- 発表者も質問された方もレベルが高く良かった。
- 質問する方が少なく、寂しかったです。
- 2 つの会場が自由に行き来出来て良かったです。
- 学び続けることの必要性を感じました。
- 発表者は司会者がいる位置で発表できる方がスライド見ながらできたのではないかなと思います。
- 現在社会にそった内容で多岐に渡りとても勉強になりました。
- 研究発表も時代がかわってきたなと感じました。
- 垣根が高くなく参加しやすい。
- 演題発表は登壇すればそのまま発表するように説明書には書かれていましたが、前者のスライドが画面に表示され、自分でスライドを開いて始めなければなりませんでした。そのため、時間オーバーとなりました。
- 看護に対する新しい考え方、医療の進歩を勉強する場となりました。
- 色々な取り組みや具体的な看護実践の関わりの報告が聞けてとても充実した日になった。
- 半日で時間的にとても参加しやすかったです。自分の経験外の分野に触れることもできとても勉強になりました。また、退院支援について改めて考えさせられ病棟看護師としてできることを考えて行動していきたいと思いました。ありがとうございました。
- パワポに音が流れたりするのは研究学会としてどうかと思いました。
- 様々な分野の発表を聞かせていただき、大変勉強になりました
- 活発な意見交換もでき、充実していた様に思います。今後の看護研究に活かしていきたいです。
- 看護の活動範囲の幅はとても広いと改めて実感しました。
- 大変参考になる内容でした。特にシンポジウムの ACP については。勉強になりました。
- 以前より、参加者が減少したように思いました。

2)研修担当者コメント

令和 5 年度看護研究学会は参加者数 91 名で 4 年ぶりの参集開催となった。

高齢化が進み人口や医療機関が偏在する県下において看護職の連携を意識し、テーマを「自分らしく生きるを支える　～切れ目のない看護～」と掲げた。シンポジウムは、万が一の時に備えて、人生の最終段階をどう過ごしたいかを支える「人生会議」における連携を、行政・医師・急性期病院・訪問看護師の立場から提言頂いた。県下の取り組みの現状を参加者で共有できる機会は今後の連携に示唆が得られ有意義な時間となった。尚、アンケートの意見に、「退院支援時に今後さらに相互につないでいく取り組みができればと思う。」の声もあり連携が再認識された内容となった。

研究発表・実践報告は 22 演題と多数の演題応募を頂いた。内容も教育、看護師支援、看護実践、業務改善、

連携、協働等多岐にわたるものであった。また、アンケートの「実践への応用に役立つか」の問いに、約 88.5%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と答えており、今回の発表が臨床現場で活用されることを期待している。

研究学会開催にあたり、ご協力をいただいた座長・発表者、参加者の皆様に心から感謝申し上げます。